

# ロックアウト・安保体制打破へ進め

- 19日 安保粉碎討論集会 (13時 2003室) 生田・工学部校舎  
三菱重工ヘデモ 10時半 法政集合 11:00出発
- 20日 法政で反大学討論集会 (午後1:00~10:00)
- 21日
- 22日 東京拘置所ヘデモ (午後2時立教で集会 3:00出発)
- 23日 教育労働者は午後1時に東大安田講堂前に結集

全教職員・学生はストをもつて決起しよう。  
怒濤の反撃で國家権力へ階級的鉄槌を!

全国の40数大学がストライキをもつて安保粉碎の闘いを組織はじめている。6.14(代々木公園)の7万人統一集会は最早や新左翼を不動のものとし、全共闘、反戦運動の後退という一切のテマゴギーキャンペーンを実践をもつて粉碎した。われわれはこの怒濤の高まりをこの間の連続闘争に基づつけ、23日の統一集会に最大限闘争を開こう。われわれは各自が置かれているクラス・研究室・職域においてグループ形成を行ないストライキをもつて結集しよう。60年安保の際に日共が行なつたあの反革命的宣伝(大衆引廻し・国会開辺での自然承認の際の大衆裏切)を許してはならない。日共=民青はこの安保を本氣で闘っていない。何故なら、彼らは自民党の云々言葉を「オウム返し」70年は「共産党と自民党の対決」だとし、民主連合政府を樹立して、安保の「癒癒通告」をもつて「安保体制」を崩せると主張している。それなら、何も街頭行動は強いて必要ではない。今から選挙運動でもやればいいのである。しかし、それでは、現在的新左翼の登場と革命的闘争のために日共下部の分裂が起りかねない。したがつて、大衆を衝頭に引き出してエネルギーを発散させ、引廻し、人民に向つて如何にも聞つてゐるかの如き幻想を振り揺くことを意圖している。われわれは、かかる既成左翼の本質を見抜き超克した地平において闘つてゐることを確認しなければならない。大学においても、職場においても貫徹している近代合理主義、管理体制は既成左翼を尖兵として徹底化していることは、この間の闘争を通して組合そのものが体制と歩調を合わせて闘争参加者を処分し、逮捕者を処分し救援を打切り、日共スターリニズムの本質をバクロしてきていることをもつて知ることができる。われわれは、きわめて具体的な問題を媒介として個別大学における闘争から国家権力に焦躁をもつた闘いへと闘争を發展させってきた。この間、日共=民青は何をやつてきたか。われわれの闘いは、「歴史の方向」を変えることが可能かどうかにかかっているが故に、自己否定を語り学問の外在的批判を展開し、反大学を志向しつつ学問の内在的批判に向かいつつある。われわれの闘いによつて「安保改正」を日本帝国主義者に放棄して「自動延長」にしたのではない。自らの利益(アジアへの帝国主義的侵略)のために「自動延長」の道を選んだのであり、その「政治力学」を何ら明らかにせず、日帝の宣伝に乗つかつて「癒癒通告」によつて「安保を廢棄」できるようになる「記念日が6月23日以降」であるというに到つては、日帝が貫徹しつつある議会制民主主義の枠内での「目標制による管理体制」のさいたるものといわねばならない。日共は調頭を「改悪」して「革命政党」でないことを内外に明らかにせよ。日共=民青にとつては、安保よりも自らが平等ないしはイニシアチブをとつて社会党の後退につづこんで社会・共産・総評の一日共闘統一集会を設けるかに力を注いでいる。われわれは、闘う相手を明確に把え、共に各自の創造空間をバネとしつつ、多方面から共同の敵にあたることを意識的に志向している。思想・イデオロギーの性急な統一を急ぐことよ

り、各自の立場から「安保」に表象される帝国主義打倒に向けて、國家権力への総反撃を開始しなければならない。この実践こそ思想・イデオロギー論争の勝利を媒介するものであるし、この実践こそ理論そのものであることを確認しなければならない。6月23日以降、再び静寂が訪れるとしたら、われわれは70年を語りながら60年に生きていることにあろう。「われに綱領を与へよ」と古人は口にしたが、われわれは自らの存在そのものを「綱領」のない闘いを進めていると云わねばならない。"今だから「勉学」を一日休んでも「闘争」に参加せよ"という設定を超克せよ。學問と闘争は二元論的に存在しない。"今だからこそ學問を捉え返すために実践を媒介せよ"と主張しなければならない。

40数名で採択が行なわれた明大教職組の総会は何を意味するか。常に「対決」を回避し「日常的要請を媒介にしつつ」といいながら大衆に追随してきた結果が1,200名の組合員を組織しながらもこの安保闘争では一般組合員の「100名」の動員さえしえないのである。われわれは、権力との闘争の關係においてこそ、「改良」目標を設定しなければならないと考える。各職場で「反戦」「共闘」を組織し、諸階層統一戦線としての「全学評」の旗の下に結集しよう。職場から、自宅から設定した闘争現場の全学評の旗の下に結集しよう。自己の内なる「体制」を払拭しよう。

出入国管理事務所へのデモは、出入国管理法の改悪によつて朝鮮人民をはじめ留学生・人民の一さいの政治活動を禁止しようとするアジア大陸革命防止という反革命的行動を拒つている「空闇=象徴」を攻撃しようとするものである。三菱重工へのデモは、日本のアジア侵略の「武器どろ」を攻撃しようとするものである。われわれの日常は「白黒テレビをカラーテレビにかえる」ものであつたとしても、その「カラー」はベトナム・インドシナ革命戦士の血の色として受け止めねばならない。この偽善的繁栄の假軸を拒い、より想いつづらる尖兵=三菱重工「空闇」を攻撃しよう。反大学討論集金は、きわめて緊張した中でわれわれの闘いの発展と媒體を創り、連帯を確認し、ある場合は分裂を促進していかねばならない理論闘争のとして設定されたものである。各自をセミ、反大学、自主講座グループはこそつて結集し、理論的深化をはかろう。

東拘(東京拘置所)へのデモは、この前の内閣鳴門で国家権力の尖兵によつて逮捕され今なお拘置されている同僚・同志の解放のために行なうものであり、それは己を蘇生する闘いでもある。

23日、この日は全人類のエネルギーを團結能力申報に向け、日帝打倒・安保法訂正に向けで統一行動を貫徹する。「通告による安保廢棄」を新たなる日帝の地平として捉え、かかる幻想を振り落く反革命者を乗り越え、歴史の新たなる方向づけを目的意識的に志向するときである。

◎。名。教育労働者は午後1時に東大安田講堂前に結集  
全教職員。全学友は全学評の旗のもと結集せよ